

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2017年5月号

はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第584号

この欄に適切なテーマか躊躇しながら、しかし「はなしあい」のための一つの問題提起として、天皇の代替わりについて考えていることを短く記すこととした。

二〇一九年一月に現・明仁天皇から次の徳仁天皇への代替わりが想定されている。しかも天皇の死去ではなく、高齢による退位に伴う即位の礼・大嘗祭が行われる。この事態をどう受け止めるべきかキリスト教界においてまだほとんど議論がなされていない。

一九九〇年の代替わりの際には、NCC大嘗祭署名運動センターが組織され、NCC加盟の各教派・団体(その中に日本クリスチャン・アカデミーも含まれる)のみならず、カトリックや福音派の諸教会も含めて、つまりこの国のキリスト教界全体として、大嘗祭への批判と憂慮を公にした。神道儀式である大嘗祭への国費使用や、憲法に抵触する可能性、さらに天皇の政治利用を懸念してのことであった。

そもそも戦前・戦中の絶対主義天皇制による信教の自由

の侵害という痛苦な経験を経て来たキリスト者たちは、戦後の天皇の「人間宣言」と平和憲法によって神権天皇制の呪縛から解放されたと受け止めて来た。しかし憲法改正への執拗な動きと昭和天皇の戦争責任をめぐって、象徴天皇制が依然として戦前の神権天皇制の影を引きずっていることへの懸念を払拭できないで

天皇の代替わりについて

象徴天皇制をどう理解するか



関東活動センター運営委員長

戒能 信生

すなわち国家が元号を強制しようとしたとき、キリスト教界は敢然として元号の使用を止めたのだ。きわめてやさやかな仕方ではあるが、キリスト教界の態度表明であった。

しかし昨年八月の天皇の生前退位表明は、新たな問いを

きた。それはヤスクニ問題への粘り強い取り組みを通して、教派を問わずこの国のキリスト教界の共通の問題意識であった。例をあげれば一九七九年に元号法制化が施行された際、ほとんどすべての教派の機関誌、各個教会の週報などはそれまでの西暦と元号の併用を廃して、西暦のみを使用するようになった。

含んでいる。現天皇は即位に際し「国民と共に憲法を護り」と宣言し、被災地への見舞いや、海外の激戦地への「慰霊の旅」を繰り返してきた。それは硫黄島やフィリピン、ベトナムなどにも及んでいる。戦争責任を曖昧にし続ける歴代の政権に対して、これは象徴天皇として一つの明確な姿勢と言える。そもそも生前退位は、神権天皇制への復帰ではなく、天皇が人間的な弱

さを負った存在であることを明らかにしたものだ。直ちに改憲勢力から生前退位への猛烈な反撥の声が挙がったこととそれは対照的である。

この国のキリスト教界は、象徴天皇制への懸念や批判はして来たものの、現天皇が慰霊の旅を続けるなどの仕方では象徴天皇制の在り方を提示して来たことの意味をきちんと受け止めて来なかったのではないか。ある意味では、現天皇から投げかけられたこの問いに対して、私たちキリスト者がどのように応じるかが問われていると言えるだろう。

しかし直ちに留保しなければならぬのは、象徴天皇制についての現天皇の理解が、今後もずっと代々の天皇たちに引き継がれるかどうかはなほだ疑問である。そこにこの問題の困難さがある。つまり天皇の個人的資質に依拠した議論に陥ってはならないのだ。

現政権が憲法改正を志向する中で、改めて象徴天皇制をどう理解するかが問われているのではないだろうか。

(日本基督教団千代田教会牧師)

関東活動センター

●2016年度「神学生交流プログラム」第8回
「今、改めてこの国の福音宣教を考える」

講師：日本ナザレン神学校校長 石田 学さん
校長：青山学院大学名誉教授、日本
基督教団神奈川教区巡回教師 関田 寛雄さん
2017年3月14日(火)〜16日(木)
会場：関西セミナーハウス



神学生交流プログラムは今年で第八回を数える。いくつもの神学校から神学生が集まり、話し合い、交流する機会が得難いものであると、私自身もかつて神学生だった身として実感する。関東活動センターにおけるこの大切な働きは、今年も会場を東京近郊から京都に移し、日本クリスチャン・アカデミー関西セミナーハウスでの開催がなかった。日程は三月一四日(火)から一六日(木)まで。驟雨

に見舞われたかと思えば青空に大きな虹がかかるというよ

うな、空模様が進むにつれ移り変わる二泊三日であった。参加したのは、七つの神学校から集まった九名の神学生である。申し込み時点では十一名であり、特に初めて東京基督教大学大学院からの申し込みがあったことは喜ばしいことであったが、学生の事情により参加がかなわなかったことは残念であった。

講師は石田学牧師(日本ナザレン神学校校長)をお迎えした。校長を関田寛雄牧師(日本基督教団神奈川教区巡回教師・青山学院大学名誉教授)が務めてくださった。実行委員は、戒能信生(日本基督教団千代田教会牧師)、松田直樹(日本基督教団京都教会伝

道師)、望月麻生(日本基督教団四街道教会牧師)である。また、関西セミナーハウスのスタッフの方々、柳井一朗牧師(日本基督教団洛西教会牧師)から、折に触れて大きなお支えをいただいた。

一日目、西南学院大学・日本聖書神学校・聖公会神学院・関西学院大学・農村伝道神学校・同志社大学大学院から、学生たちがそれぞれ到着した。受付をすませた学生たちは、セミナーハウスのロビーで既に楽しそうな歓談の声を上げていた。会場を能舞台に移して、開会礼拝。司式は関田寛雄校長。多彩な背景を持つ神学生たちが共に集って礼拝をささげる光景は、この交流プログラムの象徴的な場面である。説教の静かな語り口の中に、関田校長が長年牧師として経験してきたことの重み、そして牧師という職に召されることの重みが伝わってくる。

礼拝後、プログラム中の様々な役割分担を神学生同士で決め、さつそく石田牧師による講演である。講演の司会も神学生が担当するのだ。「わたしの霊的な歩み いまも途

上にある魂の旅」と題した講演は、石田牧師の歩んでこられた人生の一步一步を伺う貴重な機会であり、いま教会なさっている小山(おやま)教会の開拓伝道のこと、牧師として絶えず模索と葛藤を重ねつつ、小山という土地で丁寧な根を下ろしていった様子が伝わってきた。そして、様々な苦労を超えた先の、牧会者にしか味わえない喜びがあることも、石田牧師は語ってく

だされた。夕食後、ミーティングの間で参加者はそれぞれのライフストーリーを分かち合った。晩祷で神学生の証しを聞き、祈りをもって一日を閉じた。

二日目の午前中は、前日に引き続き石田牧師の講演を伺う。「日本で福音を宣べ伝えるということ」わたしの牧者論」と題して、現在の世界において教会がどのような状況に置かれているかを分析したうえで、これからの日本での宣教には何が必要になってくるのかを共に考える時となった。「日本で伝道は停滞しているのでしょうか」との問いかけから、新たな視点を

得た思いだった。午後はフィールドトリップ。同志社大学の一神教学際センター CISMOR を訪問。四戸潤弥教授から、イスラーム・ユダヤ教・キリスト教の共存と平和構築を目指しての研究や講演、交流などの活動についてお話を伺った。

セミナーハウスに帰ったあとは、最後の晩を皆で惜しむように、語り合い、歌いながら過ごした。最終日は出発の時。参加者たちと牧会の場で再会できることを願いつつ、セミナーハウスを旅立つ背中を見送った。お支えをいただいた皆様



(報告 望月麻生)

関西セミナーハウス活動センター

●2016年度 修学院フォーラム「社会」第5回
 「キリスト教徒は政治問題をどう見るか」
 —沖繩と北方領土をめぐる—
 作家・元外務省主任分析官 佐藤 優さん
 2017年1月28日(土)



例年この時期に佐藤優氏に来ていただいて講演会を持っており、今回で四回目になる。旧日本キリスト教会の出身であるという佐藤氏は、キリスト者としての社会問題へのかかわり方について述べられた。「キリスト者が社会問題にかかわるとき、個人としてのものか、教会としてのものかを区別して考えねばならない。教会は特定の政治団体ではないから教会として関わることに慎重でなければならぬ。靖国神社国営化については信仰の本質に関係するから反対していかねばならないが、首相の公式参拝に異を



唱えることは教会のすべきことではない。当事者としての関りが求められる。牧師は自分の置かれたところでの課題をもつと真剣にかかわるべきである。この議論には賛否が分かれるところだろう。北方領土の問題では「北方領土という言い方は戦後のものであり」「日本がサンフランシスコ条約で千島列島を放棄したことに問題がある。それを問わずに、国後、択捉、歯舞、色丹の4島を切り離して北方領土であるから返せ」というのは国際的説得力に

欠ける」と指摘した。またトランプ大統領は就任演説で詩篇133編を引用した「見よ、兄弟が共に座している。なんとこの恵み、なんとこの喜び」としてアメリカという喜びとしてアメリカ第一主義を掲げた。これは「キリスト教シオニズム」であり、「新しい偶像礼拝」であると警告した。その他多岐にわたる講演と質疑などが交わされた。「私は保守的だ」としながら、自分の姿勢を示してくださった。決して模範解答ではなく多くの議論を呼ぶ内容であったと思う。幅広い知識に基づいた話を聞くことができた。

●2016年度 修学院フォーラム「福祉」第2回
 (共催(公財) 京都YWCA)
 「宗教から現代を考える」
 ～宗教儀礼の現代的意味～
 貴布禰(きふね)神社宮司 江田 政亮さん
 浄土真宗本願寺派浄元寺住職 宏林 晃信さん
 日本キリスト教団牧師 福島 旭さん
 関西学院中学部宗教主事 福島 旭さん
 2017年2月25日(土)
 会場 京都YWCA

宗教儀礼とは何か、宗教儀礼の本来のあり方に立ち返り、死とは何か、生とは何かを考え、宗教の本質に迫る試みである。今回は、仏教、神道、キリスト教それぞれの立場からの話を聞いた。尼崎のFMラジオ放送で毎週「8時だよ!神さま仏さま」で出演しておられる方々である。お三人ともとても話が上手で、落語を聞いているような楽しさ

があつて、それでいて宗教の本質を深く捉えた内容があつた。誕生、成長、結婚、死という人生の節目で宗教儀式が行われる。仏教も神道もキリスト教もそれぞれ形式は違うけれども思えば共通する部分が多い。

仏教用語で故人のことを「生前中」というが、「死前中」ではないか。これは実は「生前中」の前の「往」の言

葉が省かれていて「往生前中」なのだという。それで納得。神道では教義がない。これは神道は形式だけのあいまいな宗教ということではなく、教義を持つとその人が神になつてしまうから、それを避けるための大切なことなのだそう。これは立派な教義かも知れないと思った。他方キリスト教では、葬儀など儀式を通して牧会(パーソナルケア)し、和解と出合いの場とする。フロアーからは「死んだらどうなるのですか」と言つた素朴な質問が出され、よい理解のときとなった。



プログラム案内

◆**関東活動センター**

■**聖書を読む講座I**

『イエスの譬え話II』を著者と共に読む(全9回)

講師: 山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時: 2017年4月~2018年1月(8月除く)第2火曜 18:30~20:00

③6月13日、④7月11日

会場: 早稲田奉仕園スコットホール

参加費: 1,200円/学生500円

テキスト: 『イエスの譬え話2』

新教出版社

共催: 早稲田奉仕園

■**2017年度関東フォーラム 宗教対話I**

「日本キリスト教史を読む」第I期(明治篇全7回)

講師: 戒能 信生さん(日本基督教団千代田教会牧師)

第1回「幕末期宣教師の来日と日本の教会の出発」

日時: 6月8日(木)14:00~16:00

第2回「新島襄の生涯とその初発の信仰」

日時: 7月13日(木)14:00~16:00

会場: 日本キリスト教会館6階3号室

参加費: 1回500円

■**2017年度関東フォーラム 宗教対話V**

礼拝のためのボイストレーニング(全5回)

講師: 友野 富美子さん(元声優、高知放送「キリストへの時間」パーソナリティ 日本キリスト教団経堂緑岡教会)

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>

関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>

関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>

関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

関西セミナーハウス活動センター

公益財団法人 日本キリストチャン・アカデミー

代表理事 小久保 正

本部事務局

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
TEL 075-711-2147
FAX 075-701-5256

関東活動センター

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6F
TEL 03-3207-6198

E-mail: info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/

関西セミナーハウス活動センター
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23
FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス

TEL 075-711-2115

E-mail: info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター

TEL 075-711-2117

E-mail: office@academy-kansai.org

担任教師)

日時: 6月5日~7月3日
月曜 15:00~17:00

会場: 日本聖書神学校

参加費: 1回1,000円

◆**関西セミナーハウス**

■**月釜 清心会**

日時: 2017年6月18日(日)、7月9日(日)
9:00~15:00受付(1、8月を除く年10回)

於: 関西セミナーハウス

年会費: 5,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2017年度お茶のこころと宗教のこころII**

「聖書をいっしょに読みましょう」(全8回)

座長: 榎本 栄次さん(日本基督教団牧師)

日時: 2017年4月~12月(8月除く)第1または第2木曜 13:30~16:30

③6月1日、④7月6日

会場: 関西セミナーハウス

参加費: 1回1,500円 学生500円

(抹茶含む) 定員: 20名

■**2017年度修学院フォーラム「福祉」**

第1回「共に生きる地域社会づくり~「からしだね」の実践からみる、精神障がい者にとっての生きづらさ~」

講師: 坂岡 隆司さん(社会福祉法人ミッションからしだね理事長)

日時: 2017年6月10日(土) 13:30~17:30

会場: 京都 YWCA

参加費: 一般1,500円、学生500円
共催: 京都 YWCA

■**2017年度開発教育セミナー**

第1回「開発教育入門セミナー—Think Globally, Act Locally~「足もと」と「世界」をつなぐ~」<協力プログラム>

主催: 国際協力機構 関西国際センター(JICA 関西)、京都市国際交流協会

講師: 関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会他

日時: 2016年7月9日(日)

10:00~16:30

会場: kokoka京都市国際交流会館

参加費: 無料(JICA関西へ要申込み)

定員: 50名

第2回「ビジネスで持続可能な社会をつくる~インドネシアのカカオとの出会いから」

講師: 吉野 慶一さん(Dari K株式会社)

日時: 2016年7月15日(土)16:00~16日(日)12:00

会場: 関西セミナーハウス

参加費: 10,500円(1泊2食込)

<好評販売中>
『原子力発電と日本社会の岐路 聖書と共に考える混成型共生社会と脱原発』
姜尚中+上山修平著 日本クリスチャン・アカデミー編 新教出版社 1500円(税別)
・問合せは、関西セミナーハウス活動センターまで

賛助会費・寄付金報告	
2017年3月1日~3月31日 (順不同・敬称略)	
◆ 財団本部	◆ 関西セミナーハウス活動センター 賛助会費
寄付金	森口 克洋 3,000
日本基督教団早稲田教会 25,000	山本 貴之 5,000
◆ 関東活動センター	北垣 宗治 5,000
賛助会費	藤井 伸枝 3,000
星野 宗吾 3,000	上條 美代子 5,000
寄付金	細井 敏子 3,000
林 律 10,000	岩坂 二規・泰子 5,000
日本聖書神学校 自治会 3,000	間瀬 啓允 5,000
日本基督教団番町教会 10,000	中西 和樹 10,000
神学生交流プログラム寄付金	古賀 暢子 5,000
日本基督教団早稲田教会 50,000	田沼 大典 5,000
松下 起子 1,000	寄付金(クリスマス寄付金を含む)
外谷 悦夫 5,000	浦 晴子 5,000
竹中 百合子 5,000	日本基督教団宇治教会 3,000
同志社大学神学部 神学教育後援会 40,000	柳井 一朗 5,000
石田 学 10,000	山本 知恵 5,920
関田 寛雄 48,400	浅田 涼子 3,000
佐藤 恵理子 5,000	岩村 詢子 3,000
◆ 関西セミナーハウス	榎本 栄次 10,000
寄付金	日本基督教団京都教会 5,000
大原 松雄 30,000	棟方 信彦 5,000
	以上、感謝をもってご報告申し上げます。